
けいおん！ — 真剣勝負 —

しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！ — 真剣勝負 —

【Nコード】

N3699T

【作者名】

しのぶ

【あらすじ】

放課後……音楽室でみんなが揃うのを待っている唯ちゃんと律ちゃんは『しりとり』をして時間を潰す事にしました……でも徐々に気合が入ってきて、やがてそれはお互いに一步も引かぬ真剣勝負に発展……はたして勝負の行方は！

律 「おいゝっす！」

唯 「りっちゃんおいゝっす」

律 「あれ？ 漣とムギはどこ行ったんだ？」

唯 「さっきさわちゃんが来て手伝って欲しい事があるからって連れて行ったよ」

律 「そうなのか？ 用事があるんだったらまず部長である私に声を掛けてくれればいいのに」

唯 「あずにゃんも日直で遅れて来るみたいだし」

律 「みんなが揃うまで何も出来ないな……」

唯 「うん……じゃあさ、みんなが来るまで『しりとり』でもしようよ」

律 「ふっ……小学生の頃『しりとりっちゃん』とまで呼ばれた私に戦いを挑むとは……」

唯 「な……私だって小学生の時、先生に『唯ちゃんってしりとり強いわね』って褒められた事があるんだから」

律 「よし！ じゃあどっちが本当の『しりとりクイーン』か勝負して決めようじゃないか」

唯 「いいよ、絶対に負けないんだから！」

律 「まずは最初の言葉だけど、ハンデとして唯が決めていいよ」

唯 「ううゝ……バカにしてえ……じゃあ最初は『けいおん』から！」

律 「……」

唯 「どうしたのりっちゃん？ 『ん』だよ、早く言ってよ」

律 「あのな唯……『しりとり』のルール知ってるか？ いきなり『ん』って何なんだよ！」

唯 「え？ 何かおかしい？」

律 「最初から『ん』で終わられたらどう続けるんだよ！」

唯 「チャド共和国の『ンジャメナ』とかカメルーンの『ンゴウ
ラル』とかナイジェリアの『ングル』とか他にもいっぱいあるけど……ああ……もしかしてりっちゃん『ん』で始まる言葉全然知らなかったんだあ」

律 「そ……そんな訳ないだろ！ 全部知ってるけど、しりとりは『ん』で終わったら負けてルールだから注意してるんじゃないか」

唯 「ほんとかなあゝ」

律 「くっ……少しは手加減しようと思ってたけど、もう容赦しな

いからな！」

唯 「私だって本気で行くからね」

律 「じゃあ最初は『平沢唯』ひらさわゆいからでいいな」

唯 「いいよお、じゃあ私は『烏賊』いかね」

律 （ふふっ……まんまと策略に引っ掛かったな） 「じゃあ私は童謡で有名な『かごめかごめ』で」

唯 「んじゃ私の好きな『目玉焼き』めだまやき♪」

律 「『金太郎飴』きんたろうあめでどうだ！」

唯 「楽勝楽勝♪『メトロノーム』でどう？」

律 「ん……『村雨』むらゆ」

唯 『メモ』

律 『もち米』

唯 『めがね』

律 『狙い目』ねらいめ

唯 『メディア』

律 『雨』あめ

唯 『目覚まし時計』

律 『煎り米』

唯 「……」

律 「どうしたんだよ唯？ 『め』だぞお！」

唯 （ふうくん……そう言う作戦なんだ……だったら） 「じゃあ私は『目』で……次はりっちゃんが『め』だよ」

律 「ぶふっ……それで反撃のつもりか？ じゃあ私は植物の『芽』な」

唯 「う……いいもん……そんな攻撃くらいで私負けないもん！
『メールアドレス』」

律 「おっ……開き直ったな、だったら遠慮せず『スルメ』でどうだ！」

唯 『メス』

律 『雀』

唯 『メドレー』

律 『レバニラ炒め』

唯 『目薬』

律 『りんご飴』

唯 『メイド』

律 『泥亀^{どろがめ}』

唯 「め……め…… 『メキシコ』」

律 「ふふふ……なかなかしぶといな 『コンソメ』 でどうだ」

唯 「うゝ…… 『メイク』」

律 『クレオメ』

唯 「ちょっと待って！ 『クレオメ』 って何よ」

律 「え？ 南アフリカ原産の植物だけど、もしかして知らないとか？」

唯 「そ……そんな事ないもん……ちゃんと知ってるよーだ」

律 「じゃあ次も 『め』 だからな」

唯 「分かってるよお……んと…… 『芽キャベツ』」

律 『継ぎ目^{つぎめ}』

唯 『明治神宮^{めいじじんぐう}』

律 『裏目』
うらめ

唯 『メカ』

律 『亀』
かめ

唯 『名誉』
めいよ

律 『欲目』
よくめ

唯 『雌蕊』
めしべ

律 『紅雀』
べにすずめ

唯 「うう……」

律 「唯、そろそろギブアップしたらどうだ？」

唯 「絶対に嫌！」

律 「じゃあ『め』だぞ、早く早く」

唯 「分かってるもん……えっと『冥王星』
めいおうせい」

律 『石目』
いしめ

唯 『メゾネット』

律 『虎鯨』
こけい

唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯
『女神様』 めがみさま	『月極め』 つきぎぎめ	『名物』 めいぶつ	『咎め』 とがめ	『夫婦』 めおと	『梅』 うめ	『名湯』 めいとう	『一本締め』 いっぽんじめ	『眩暈』 めまい	『戒め』 いましめ	『目板鰈』 めいたがれい	『潮目』 しおめ	『名刺』 めいし	『学問のススメ』	『名画』 めいが

律 『馬籠』

唯 「えっと……えっと……『メビウスの輪』」

律 （ふふ……もう少しで終わるな……） 『わたあめ』

唯 （絶対に諦めないもん！） 『名所』

律 『横目』

唯 『目出し帽』

律 『憂き目』

唯 『メツキ』

律 『極め』

唯 『迷彩服』

律 『久留米』

唯 『迷宮』

律 『海亀』

唯 『命日』

律 『千歳飴』

唯 『メデューサ』

律 『境目』
さかいめ

唯 『名月』
めいげつ

律 『爪』
つめ

唯 『メリーゴーランド』

律 『奴智鯨』
ヌチクワ

唯 「……そんな鯨、本当に居るの？」

律 「嘘だと思ふなら調べてみてもいいんだぞ」

唯 「居るならいい……『メザシ』」

律 『白髪染め』
しらがぞめ

唯 『明細書』
めいさいしょ

律 『寄り目』
よつめ

唯 『メジャー』

律 『役目』
やくめ

唯 『メコン川』

律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律	唯	律
『白梅』 しらうめ	『目張り鮓』 めはりすし	『肌理』 きり	『面積』 めんせき	『陸亀』 りくがめ	『目尻』 めじり	『糸若布』 いとわかめ	『名医』 めいい	『岩梅』 いわうめ	『名水』 めいすい	『石亀』 いしがめ	『姪』 めい	『活け締め』 いけじめ	『メロディ』	『わかめ』

唯 『めちから
目力』

律 『らんがくことはじめ
蘭学事始』

唯 「……」

律 「どうした唯？」

唯 「よく分かんないけどちゃんとある言葉なんでしょ？ だった
ら何でもない……」

梓 「遅くなってすみマセン、日直の仕事が思った以上に手間取っ
ちゃって……ってどうしたんですか唯先輩！ 涙なんか浮かべて！」

唯 「なんでもない……りっちゃんと『しりとり』してただけだか
ら……」

梓 「『しりとり』？ 『しりとり』で遊んでるだけで涙なんか浮
かべる筈ないじゃないですか！ 本当の事を言っして下さい！」

律 「本当なんだって、唯が負けそうになったからちよっとベソ搔
いてただけで」

唯 「ベソなんか搔いてない！ まだ終わってないもん！」

梓 「ちよ……唯先輩……そんな熱くならなくても」

律 「いいや、これは『しりとりクイーン』の称号を掛けた女と女
の真剣勝負なんだ！」

唯 「う……うう……『メトロ』」

律 『蠟描き染め』
ろうかきぞめ

唯 『メレンゲ』

律 『外記政始』
げきのまつりごとのはじめ

唯 『名曲』
めいきょく

律 『久慈目』
くじめ

唯 「うう……」

梓 「唯先輩ひょっとして……ずっと律先輩に『め』で返されてたんですか？」

唯 「うん……」

梓 「はぁ……典型的なハメパターンですね……それで何個くらい答えてたんです？」

唯 「……50個以上……」

梓 「……！！！」

律 「もうそろそろ限界だろ？ 諦めて降参したらどうだ？」

唯 「嫌！ 降参なんて絶対に嫌！」

梓 「って……唯先輩どこに電話してるんですか？」

憂 【もしもしお姉ちゃん？】

唯 「うゝいゝ……『め』が……『め』が……」

憂 【ちよっとお姉ちゃん！ 目がどうしたの?!】

唯 「『め』が無くなっちゃったよお」

憂 【ええええええええええ!!!!】

梓 「ちよっと唯先輩！ そんな言い方したら絶対に憂が勘違いして！」

憂 「お姉ちゃん大丈夫なの?!」

梓 「……ほら、来ちゃった……」

憂 「お姉ちゃんいったい何があったの?! 目は大丈夫なの?!」

梓 「憂、落ち着いて！ 実はカクカクシカジカで……だからそんな大袈裟に騒ぐ事じゃ……」

憂 「許さない……」

梓 「え?! ちよ……憂……えゝ?!!!」

憂 「お姉ちゃんを悲しませる人は誰であろうと許さない！ 続きは私がします！」

律 「ベ……別にいいよ、唯が50個以上答えてるからもう無いと思うし」

憂 「もしお姉ちゃんが言ってる単語だったら教えてください、言い直しますから」

律 「わかった、じゃあ『久慈目』くじめからな」

憂 『メイエルホリド』

律 「はあ？ 何だそれ？ 梓知ってるか？」

梓 「いえ……知りませんが、ちょっと待って下さい、今携帯で調べてみますから」

憂 「ロシアの演劇の演出家ですよ」

梓 「ほんとだ……ちゃんと書いてありますよ」

律 「人の名前なんだ……さすが憂ちゃんってところ……梓、次から難しい単語が出てきたらすぐに調べてくれないか？ 無い時だけ教えてくれればいいから」

梓 「はい、分かりました」

律 「じゃあ私の番だな……ど……ど……ど……『胴締め』どうじめ」

憂 『面心立方格子』めんしんりつぽうこうし

律 （何だそりゃ？ でも梓が何も言わないって事は辞書に載ってる言葉なんだな……） 「えっと『しめ×』」

憂 『目白酸漿』
めじろほおずき

律 『効き目』
ききめ

憂 『明窓浄机』
めいそうじょうき

律 「くっ……『霧雨』」
きりさめ

憂 『滅鬼積鬼』
めつきしやつき

律 『聞き納め』
ききおさめ

憂 『芽鹿尾菜』
めひじき

律 （逆に『き』攻めかよ……） 『興醒め』
きんせいめ

憂 「どうしたんです律さん？ 不安そうな表情になってますけど……心配しなくても特定の文字で攻めるなんて事しませんから……
『明夷待語録』
めいいたいごろく

律 （まだまだ余裕って事か……） 『美し女』
くわしめ

憂 「なかなか頑張りますね、じゃあ『名臣言行録』
めいしんげんこうろく

唯 「憂、凄い凄い！」

憂 「えへへ、お姉ちゃんは安心して見ててね」

律 『櫛目』
くしめ

憂 『迷津慈航』
めいしんじこう

律 「……『薄目』」
うすめ

憂 『鳴禽類』
めいきんるい

律 『色目』
いろめ

憂 『面形天蛾』
めんがたすずめ

律 『恵みの雨』

憂 『免疫血清』
めんえきけっせい

律 (どこまで続くんだよ……) 『諫め』
いさめ

憂 『面角一定の法則』
めんかくいつていのほうそく

律 『嚏』
くさめ

憂 『目塞き編み笠』
めせきあみがさ

律 『賽の目』
さいのめ

憂 『雌阿寒岳』
めあかんだけ

律 『毛染め』
けぞめ

憂 『明六雜誌』
めいろくざっし

律 『撞木鯨』
しゅもくぎょめ

唯 「憂〜♪ がんばれえ〜♪」

紬 「遅くなってごめんなさいね、さわ子先生のお話が長引いちゃって……って、あら？ 憂ちゃん……唯ちゃんに何か用事でもあったの？」

漚 「何だこの雰囲気は？ 盛り上がってると言うかピリピリしてると言うか……いったい何をしてたらこんな空気になるんだ？」

梓 「えっと……実はカクカクシカジカと言う訳で……」

漚 「『しりとり』で意地になるって……律、お前は小学生か！」

紬 「私『しりとり』って初めて見た〜♪」

漚 「いや……私は『初めてしりとりを見る人』を初めて見たよ……」

律 「とにかくそう言う事だから邪魔はしないでくれ」

憂 「じゃあ私の番ですね……『命数法』
めいすうほう

律 『歌会始』
うたかいはじめ

憂 『迷惑行為防止条例』
めいわくこういぼうしじょうれい

律 『怒り爪』
いかりつめ

憂 『明鏡止水』
めいきょうしすい

律 『齋女』
いづきめ

憂 『明暗順応』
めいあんじゅんのう

律 『氏女』
うじめ

憂 『明正天皇』
めいせいてんのう

漣 「なあ梓……何て言うか、凄いしりとりだな……」

梓 「ええ、憂はあえて簡単な『明治天皇』を言わない事で律先輩に余裕を見せ付けてプレッシャーを掛けてるんですよ」

紬 「真剣な表情のりっちゃんと憂ちゃん……す・て・き」

漣 「えっと……自分の世界に行っちゃったムギは置いといて……さつきから梓は何を調べてるんだ？」

梓 「これですか？ これは憂が言う言葉が難しすぎるから本当に辞書に載ってる単語なのか調べてるんですよ」

漣 「なるほど、確かに憂ちゃんの言う単語って聞いた事ないものが多いしな」

梓 「と言う事で漣先輩も審判手伝ってください」

律 『魚の目』
うおのめ

憂 『メシエ天体』
てんたい

律 『射目』
いめ

憂 『メモリーカード』

律 『土留』
どいり

憂 『メモリースロット』

律 『通り雨』
とおりあめ

憂 『メモリーオーバーレイ』

律 『家雀』
いえすずめ

憂 『メモリースティック』

律 『糞真面目』
くそまじめ

憂 『メモリーモジュール』

漚 「ちょっと待って憂ちゃん！ その『メモリー〇〇』って言うのは少しずるいような気がするんだけど」

憂 「そうですか？ だったら別に言い替えても構いませんよ……
じゃあ『メルカトル図法』で」

律 『牛込』
うしごめ

憂 『メソポタミア文明』
ぶんめい

律 『伊賀専女』
いがとうめ

憂 『メタクリル樹脂』
じゆし

律 『仕事納め』
しごとおひめ

憂 『メチルメタンスルフォネート』

漣 「なあ梓……憂ちゃんの言ってるのって何語なんだ？」

梓 「さあ？ とにかく調べてみましょう」

律 『綴じ目』
とじめ

憂 『メフメットパシャソコロビツチ橋』
はし

律 「（どこの橋なんだよそれ！）『姑』
しめうとめ

憂 『メタンハイドレート』

律 『取り決め』
とりきめ

憂 『メソトリウム』

律 『娘』
むすめ

憂 『メタボリックシンドローム』

律 『群雀』
むれすずめ

憂 『メタスタビリティー』

律 『一味の雨』
いちみのあめ

憂 『メラニン色素』
しきそ

律 『総元締め』
そうもとじめ

憂 『メゾソプラノ』

律 『鋸鮫』
のこざめ

憂 『瞑座』
めいざ

律 (えっと……『ざ』……『ざ』で始まって『め』で終わる言葉
……何か無いか……もっと考えろ)

滯 「……なあ律……『しりとり』なんだから別に『め』で返さな
くても普通に『ざ』で始まる言葉を言えはいんじゃないのか?」

律 「駄目なんだよ! これはもうそんな単純な事じゃなくて『め』
で返せるか、そして『め』で答えられるかって言う意地なんだ!」

梓 「それってもう『しりとり』じゃないような気がしますけど…
…」

律 (何か無いか?……『ぎ』……『ぎ』……)

紬 『ザーネトルテフロツケン』

律 「え?..?」

憂 「紬さん?..?」

紬 「あら、『ん』が付いちゃったから私の負けね♪」

律 「ちょ……ムギ! 何を言ってるんだよ」

紬 「負けた罰としてお茶を淹れるから少しだけ待っててくれるかしら♪」

唯 「罰って……ムギちゃんいつもお茶淹れてくれてるじゃない……それより『ザーネトルテフロツケン』って何?」

紬 「うふふ、今日持ってきてるお菓子の名前よ♪ さあ、みんなで仲良く食べましょ♪」

梓 「賛成ですう!」

漑 「よし! 『しりとり』はムギの負けで終わりだな!」

律 「そ……そんな中途半端な」

紬 「たくさんあるから憂ちゃんも食べて行ってね」

唯 「わぁ〜いムギちゃんありがとう！ 憂、一緒に食べよ」

憂 「う……うん」

梓 「ちよつと唯先輩！ 一人で何個も取らないでくださいよ！」

唯 「いいじゃないのよお」

律 「……………」

漣 「どうした律？」

律 「あははは、まあいいか！ よし、私も食べるぞ！」

紬 「はい、りっちゃんどうぞ♪」

律 『うめえ〜！』

唯 「め……め…… 『めんたいこ』」

漣 「いい加減にしろ！」 ポカッ！

唯 「いったあ〜い」

律 「あははははは」

と言う事で放課後ティータイムは今日も平和でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3699t/>

けいおん！ — 真剣勝負 —

2011年5月23日20時52分発行